

我が懐かしの 50mhz

JA1WOB 齋藤 章

CQ 誌の 5 月号に「懐かしい 50Mhz」の別冊があり、かつてハムの入門バンドであった、50Mhz の懐かしい内容でした。

既に、TOW-FORTY 誌で私のハム遍歴を紹介した事がありますが、改めて、50Mhz の遍歴を紹介させていただきます。

私がハムに興味を持った 1964 年は高校時代の友人の勧めもあり、まずは BC 帯の ST 管の 5 球スパーを 3.5MC/7MC が受信出来る様に改造しましたが、感度が悪く、失敗作でした。

当時流行の高一中二プラス Q マルチ付きの 9R59 のキットが購入出来ず、スペクダウンした、高 1 中 1 の JR200 のキットを購入しました。毎晩 3.5Mc や 7Mc の SWL をしていました。

その後、友人が 50Mc に QSY した事により、50Mc のクリコンを自作して、50Mc がメインバンドになるキッカケになりました。

当時の初級ハムは、3.5MC/7MC で自作の送信機や受信機を使つての運用が主流でした。

50Mc を運用するには、一寸高度の技術と一寸高価な部品を使用しました。

真空管のソケットや水晶のソケットやバリコン、などの絶縁部はベークライトではなく、高周波特性に優れたステアタイトを使用しました。

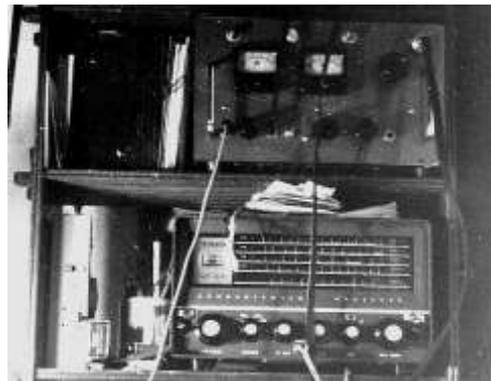
また、裸のアルミシャーシに前面パネルではなく、前面パネルは SPCC 鋼板で出来たリードのケースでした。今でもインターネット検索で「リードの AS 2」と入力するとカタログが出てきました。

1966 年 3 月に JA1WOB で開局したリグは、リードの AS-2 に自作した送信機で終段 2E26, 変調 6L6PP, 受信機 JR200+X コン、アンテナはタニグチの 3 エレキ八木でした。

当初は VFO も無く、8Mc の水晶を 3 個位で QRV していました。

その後、2E26 が 6146 に変わり、3 エレが 5 エレになり、水晶から VFO になりましたが、TVI も発生して、夜中にこっそり QRV する状態でした。

社会人となり、多少軍資金が出来たので、TR1000 を巣鴨のハム月販で購入して、TVI から解放されました。



1Wに5エレ八木と水晶の5チャンネルでしたが、Eスポなどで、8エリアや6エリアと交信できて満足していました。

1967頃のログを見ると、真空管の終段名称やTX-88Aの記録から、TR-1000やFDAM-1、FDAM-2の記録が多くなっています、この頃から50Mcがハムの入門バンドと呼ばれる様になって来たと思います。

HFのSSB化に伴い、自作出来ていた送信機や受信機も複雑になり、高い技術レベルが必要となり、メーカー製のRIGは高価になって行きました。

また、国家試験のみだった電話・電信級の取得が、講習会制度が始まり中・高校生が容易に取得出来る様になって、HAM人口が増えていきました。

中・高校生にとって、HFのSSB機はとても高価でしたが、50McのSSB化はまだだったので、まだAM全盛の時代でした。

1968年にパナスカイ6を追加して、XTAL運用からVFO運用になりましたが、QRHが激しくて、トリオのVFO-2を増設して使用していました。

50MCに特化した、町田市の「七国ビームクラブ」に入会していました。

そのクラブでクラブ周波数を決める事になって、町田市の市外局電話局番の0427から、50.0427となりました。

今ではCWモードの周波数ですが、当時はまだ制約がありませんでした。

当時は、パナスカイ6やIC-71などのメーカー製でもQRHがある為、長時間ラグチューには不向きで、50.0427MCの水晶を特注して、運用していました。

1970年頃になると、50McもSSB化が進み、TS-511とFTV-650でQRVする様になりましたが、仕事と青春を謳歌するのに忙しく、144Mhz・FMのモバイル運用で特定局のみの運用で、固定からはQRT状態となりました。

1975年頃には、ミズホ通信のMK-610のキットを製作して、アンテナも4エレ八木を上げて、QRVしましたが、AM局も少なく年に十数局との交信する程度で、アクティビティは最低でした。その後ピコ6が発売されて人気がありましたが、使う事は有りませんでした。

サイクル21は1980年ピークでしたが、QRVするSSBのRIGも無くまた、時間も無く、静かにしていましたが、職場の同僚からFT-620を借用して、国内Eスポを楽しみました。

しかし、巷で話題だった50MhzのDXが出来る事もなく、またしてもQRT状態した。

サイクル22がピークを迎えた1990年に、いよいよ本格的にQRVする事になりました。

リグとアンテナはIC-726Sに4エレHBC9Vで再開局しました。

良いコンディションに助けられて、10WでYBとのDX交信が出来た時は、初QSOの時の様に嬉しかった。

その後のサイクル23、24,はサイクル21に比べるとダウンしていました。

1991年頃から240グループに参加して、モバイル用には、固定と兼用でIC-726Sを設置して、1/2λのモバイルアンテナも取付けました。

アマチュア無線が130局を超えてピークを迎えた頃であり、T-ZOONの新春セールで、FT-690MK2の格安品を求めて、早朝の一番電車で秋葉原へ行くと、まだ辺りは暗いのに、何人かのHAM達が列を作っていました。

各自、それぞれにお目当てある様で開店前の情報交換がありました、やがて開店と同時に店に入り、お目当てのFT-690MK2をゲットしました。

これで、モバイルと移動運用にFT-690MK2が増えました、2.5WMAXは山の移動運用では、パイルとなる程でした。

しかし、モバイルでは、非力で東大和-羽村の通勤モバイルでは、同じ方向の局との交信は問題ありませんでしたが、都内へ向う局との交信は無理でした。

その後、10WリニアのFL6020を追加し、最終的にはHL-66Vで50W運用になりました。

また、月に1度は、週末に奥多摩・奥秩父に移動運用しては、50Mhzに移動運用を楽しんでいました。

そんなある日、友人から古いリグの引取り依頼があり、届いたRIGが、50MhzのRJX-661とRJX-601と144Mhz FT-221でした。

RJX-661は、1975年に発売された50MhzのALL-MODE機でした。

FT-101より一回り大きい、立派な無線機でした。受信・送信共異常は有りませんでした。保管スペースに困り某中学校の無線部にQSYしました。



RJX-601は、今も健在で、年末に

あるAMコンテストやAMのロールコールで使用していましたが、最近はお疲れの様で出番がありません。

その後、TR-9300やTR-1300などの50Mhz専用機を入手しましたが、通常運用には、FT-857やFT-817などの、HF/VHF/UHFの無線機でQRVしています。

50Mhz専用機はTS-60を最後に、無くなってしまいました。

HF+50Mhzが標準になってしまった様であり、昭和のラジオ少年だった、50Mhz大好き爺い、にとっては残念な事です。

私が使用した50MHzの無線機達の写真です

TR-1000 AM 水晶5CH	パナスカイMk6 AM-VFO
	
MK-610 AM-CW	RJX-601 AM-FM
	
FT-620 ALL-MODE	TR-9300 ALL-MODE
	
IC-726 HF+50 ALL-MODE	FT-690Mk2 50MHZ-ALL-MODE
	

終わり
2023年6月記